

悠友だより

2011年 1月号 No.10
福岡悠友クラブ
〒814-0001
福岡市早良区百道1-5-7-101
Tel 092-405-5234
090-5281-1870
(クマダキ)

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。

私からだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ
「童謡集」より



よく知られている金子みすゞの詩です。

昨年の暮れ、西日本新聞の「春秋」にこの詩をあげて、「五体不満足」の作者乙武洋匡さんが小学校の教員になった時のエピソードが紹介されていました。一年間子供たちと過ごした後に、この詩で作者の1番言いたいところを問いかけたところ、全員の子供たちが最後の行の「みんなちがって、みんないい」と答えたそうです。そこに至った経緯を知りたく、早速小説「だいじょうぶ3組」を求めました。失敗続きの学級運営の中、乙武さんはすぐに結論を出さずに、「子供たちに考えさせる」「自分のこととして考える」ということを続けていました。○か×ではなく、急いで結果を求めるのではなく、じっくり問題に取り組むことが、このスピード化の世の中にはすぐわないかも知れませんが、しかし、反対にそういうことをしなくなってきたが故の弊害の方が、今の社会には多いのではないかと思います。

全員の子供たちが、最後の一行の大切さに「気づく」ことができたことに感銘を受けました。

学校教育の中でも然り、若者の就職状況も然り、そして、高齢者社会の中でも然りです。確かに物質的には居心地のいい場所の提供は多くなっている面もありますが、はたして、心穏やかに、一人一人が尊重されて過ごすことができるようになっていくのでしょうか。

一個人として存在を「認められない」事ほどさびしいものはないですよ。ちょっとした声掛けで、できる人が手を差し伸べる、お互いがお互いを思いやる・・・

自分自身を考えた時、きっと私も頑固おばあさんになることは間違いなし！

けれど、周りを見渡すことが出来、人を褒めることができる程の気持ちのゆとりを持っていければと思います。きっと、自分も「褒めてもらいたい〜！」とジタバタと頑張ると思いますが・・・

今年も一年、こんな気持ちで仲間と過ごしていければと思っています。

最後になりましたが、昨年は社会福祉振興助成事業「クラフト研修」、福岡市博多区社会福祉協議会「手作りレクレーション研修」など、新しい経験もさせていただきました。また、出前講座も新しい施設や、子供会など新たな出会いも楽しませていただきました。

本年も、会員一同、シニア世代ではありますが、兎のごとく飛び跳ねたいと思いますので、ご支援よろしくお願いたします。

nishijima

～“クラフト研修会” 情報～

◆福岡悠友クラブ「クラフト研修」 (予防介護施設従事者やふれあいサロン担当者対象)

☆第6回 1月14日(金) 午後13時30分～16時30分 クローバープラザ創作室
“節分リース”とグループワーク

☆第7回 2月2日(水) 午後13時30分～16時30分 クローバープラザ創作室
“粘土の兎のおひな様”とグループワーク

◆東区社会福祉協議会「ふれあいサロン研修会」物づくりレクリエーション

☆1月17日(月) 午後13時30分～16時 “小花のペイント”
“針を使わないフェルトのコサージュ”

◆城南区社会福祉協議会シニアアシスト城南「ボランティア研修会」

物づくりレクリエーション

☆第1回 2月21日(月) 午前10時～12時 “小花のペイントのリモコンラック”

☆第2回 3月7日(月) 午前10時～12時 “バラのコサージュ”

～“手づくり出前講習” 情報～

◆ソーシャルサポート相談室「なでしこサロン」

☆第27回 1月20日(木) 午前10時～12時 “ひな祭り 粘土の飾り玉”

☆第28回 2月10日(木) 午前10時～12時 “粘土の兎のおひな様”

☆第29回 3月10日(木) 午前10時～12時 “レース柄の植木鉢”

◆ケアホーム「花うさぎ」(デイサービス)

☆第11回 1月26日(水) 午後14時～15時 “粘土の兎のおひな様①”

☆第12回 2月16日(水) 午後14時～15時 “粘土の兎のおひな様②”

☆第13回 3月9日(水) 午後14時～15時 “レース柄の植木鉢”

◆フラワーガーデン

☆第5回 5月12日(木) 午後14時～15時 “デコスイーツの小物入れ”

◆三筑ふれあいサロン

☆2月9日(木) 午後14時～16時 “粘土の兎のおひな様”

◎“手づくりサロン”(中央市民センター)

どなたでも楽しんで作れる手づくり講座です。作ってみたい、遊びに来てみたい方お待ちしております。

※第31・32回は2回コースです。

第31回	1月25日(火) 13:00~15:30	お雛様① 粘土の飾り玉と新年会
第32回	2月8日(火) 13:30~16:00	お雛様② 粘土のお雛様

場所	中央市民センター 2F
定員	15名
お茶とお菓子もお楽しみに	

※3年近く福岡悠友クラブ主催の手づくり講座を開催してきましたが、会場確保が困難なためしばらくの間お休みをいたします。

たくさんの方に参加していただきました。本当にありがとうございました。

尚、「さざんぴあサロン」はそのまま継続いたしますので、さざんぴあ博多の講座へご参加ください。



◎“さざんぴあサロン”(博多南地域交流センターさざんぴあ博多)

「さざんぴあ博多」との協働企画です。是非ご参加ください。

第13,14回	1月28日(金)2月4日(金) 13:00~15:00	ちりめんのお雛様と三人官女 2回コース
---------	--------------------------------	------------------------

場所	1階研修室
定員	15名

※来年度も年6回を予定しています。

4月…布草履づくり 6月…エコテープの小物入れ

8月…デコパージュの鏡 10月…コサージュ

12月…お正月飾り 2月…粘土のおひな様



◎詳しくはお電話でお問い合わせください。参加ご希望の方は、

開催日1週間前までに、電話でご予約ください。

TEL405-5234・携帯090-5281-1870(クマダキ)、携帯090-4344-1529(ニシジマ)

◆歳時記◆

根菜がおいしい季節です。ビタミンの補給にも是非お勧めの超簡単お漬物です。

(会員阿部さんからのレシピです)

～大根の醤油漬け～

- ・皮むき大根 2kg
- ・醤油 240g
- ・薄口醤油 240g
- ・酢 240g
- ・砂糖 480g
- ・鷹の爪、昆布



大根は適当な大きさに切っておく。
大根以外の材料を合わせてひと煮立ちさせ、完全に冷めたら、容器に大根とともに入れ漬け込みます。
2日目位から食べごろです。

切った大根を一日干して漬け込むと、味がより一層しみこんでまた違った触感が味わえます。
味醂や白だし、風味づけにゆずなど、アレンジして冬の味をお楽しみください。

福岡悠友クラブ会員募集中です

“シニア間の教えあい学びあい”をモットーに、手づくり大好きな方、新たな目的で社会参加したい方、ボランティアに興味がある方・・・会員を募集中です！
毎月1回会員のための「手づくり塾」で講習会、勉強会を行ないながら、高齢者の施設、ふれあいサロン、親子手づくり講習会他色々な所で手づくり出前講座の“手づくりヘルパー”として活動しています。
つくるだけでなく、人とのふれあいを大切にしながら、地域にかかわっていけたらと思っています。
是非ご参加ください。

～例会、手づくり塾予定～

- 第38回 1月13日・・・例会、講習会(粘土のお雛様)
- 第39回 2月17日・・・例会、講習会(レース柄の植木鉢)
- 第40回 3月17日・・・例会、講習会(未定)

節分のお話

福岡県の民話より

むかしむかし、殿さまの使いで他の国へ行く途中の男が、門司(もじ)↓福岡県北九州市)の鹿喰峠(しじばみ)にある大きな岩に座ってたばこを一服していると、突然鬼が現れて言いました。
「これはうまそうな人間だ。悪いが昼飯に、お前を食べさせてもらうぞ」
男は怖くて腰が抜けてしまい、逃げる事が出来ません。でも男は、勇気を出して言いました。
「食べるというのなら仕方がないが、この世の最後に頼みを聞いてくれ」
「何だ、頼みとは？」
「鬼は、自分の大きさを自由に変えられると聞く。食べられる前に、何かでつかい物に化けるところを見せてくれ」
すると鬼はニヤリと笑って、大きく息を吸い込むと、山よりも大きな体になりました。
「どうだ、これで満足か？」
「ああ、さすがは鬼だ・・・でも、小さい物は苦手だろう」
男がそう言うと、鬼は大きく息を吐いて、どんどん小さくなりました。
そしてついには、豆粒ほども小さくなりました。
「どうだ、これで満足か？」
「ああ、満足だ！」
男はそう言うと、その小さくなった鬼を、パクリと飲み込んでしまいました。
でもすぐにお腹の中の鬼が暴れ出したので、男は血相を変えて玉泉寺(ぎよくせんじ)と言うお寺に駆け込むと、和尚さんに助けを求めました。
「和尚さま、助けて下さい！ 小さくなった鬼を飲み込んだのですが、鬼が暴れるので腹が痛くてたまりません」
すると和尚さんは、小僧に炒った大豆を用意させると、「鬼は外！」と、叫びながら、その炒った大豆を男に食べさせました。
すると、男のお腹がどんどんふくれてきて、
ブーーンッ！
と、大きなおならが出たのです。
そしてそのおならと一緒に鬼も飛び出してきたのですが、おならのあまりの臭さに鬼はそのまま死んでしまったのです。
和尚さんの話によると、鬼の正体は寺の境内(けいだい)にあるクヌギの精が化したものだそうです。
そしてこの玉泉寺の豆まきが、節分の由来だとも言われています。